

映画研究部

映画鑑賞レポート

平成28年度

5月分

新入部員募集中です。

映画評論や映画紹介、
映画に関する随筆を
発表してみませんか。

興味のある人は顧問まで。

鑑賞レポート 一覧

- 30804** 「僕の初恋をキミに捧ぐ」
- 31923** 「ディストラクション・ベイビーズ」
- 32020** 「エイプリルフールズ」
- 20725** 「ビリギャル」
- 20836** 「シビル・ウォー」

映画名 「僕の初恋をキミに捧ぐ」

評価 10/10

ストーリー (ネタバレあり)

心臓で移植しない限り 20 歳まで生きることができないと子供の頃に宣告された一人の男の子タクマと、いつもタクマの横でいつも支え続けている女の子マユの二人の幼い頃から高校生までの話である。二人は幼い時に、「将来結婚する」という約束をしていた。けれども叶えられそうにないと感じたタクマはマユと離れるために全寮制の高校を選んだが、マユもついてきた。結局二人は、何があっても離れられない運命なのであった。二人の間に、亀裂が入りそうになっても本当の気持ちでは、ずっと惹かれ合っていた。人生の間でもとても短い時間の中での人を愛して、今を一生懸命生きるという切ないラブストーリーです。

鑑賞レポート (ネタバレあり)

私は、この映画の原作である漫画も持っているほどこの映画が好きで、今回見ました。

映画を見て、私が一番印象に残っているのは、マユがタクマを助けるために友人である脳死状態の心臓をくださいと頭を下げて頼み込んでいる場面です。大好きな人を助けるには、移植手術を受けるしかない。けれど、そうしたら友人は脳死の状態から完全に死んでしまう。もし、自分がマユの立場だったらと考ただけで恐ろしくてとても怖いです。臓器移植は医療技術としては、とてもすごいことだけれど、それに伴って周りの家族の一方は喜び、一方は悲しんでいるということだと改めて思いました。

結局タクマは移植をやめて、最後には死んでしまったけれど、短い人生の中で、タクマの横にはずっとマユがいて、いつも明るく支えてくれて、恋愛もして、私にはとても幸せそうに見えました。病気はいつ誰に襲いかかるかわからない理不尽なものだけど、いい方に考えると、病気をして初めて分かることもあるのかなと思いました。命に限りはあっても、自分がどれだけ一生懸命に今を生きることが大事だと伝わってきました。一般的なラブストーリーでは、感じることのできない二人の目には見えない強い心の結びつきがあると思いました。

今月の鑑賞映画報告

僕の初恋をキミに捧ぐ

評価 5 / 5

恋愛のドキドキ感と、死が身近に迫ってきている恐怖感があって、とても切なくなりました。

予告犯

評価 3 / 5

映画を通じて、伝えたいことは伝わったけれど、予想していたよりも期待外れでした。

映画名「ディストラクション・ベイビーズ」

評価 8 / 10

ストーリー（ネタバレあり）

愛媛県のこぢんまりとした港町・三津浜の造船所に二人で生活している芦原泰良（柳楽優弥）と弟の将太（村上虹郎）。けんかばかりしている泰良はある日突然三津浜を後にし、松山の中心街で相手を見つけてはけんかを吹っ掛けていく。そんな彼に興味を抱いた北原裕也（菅田将暉）が近づき、通行人に無差別に暴行を働いた彼らは奪った車に乗り合わせていた少女。那菜（小松菜奈）と一緒に松山市外へ向かう。

鑑賞レポート（ネタバレあり）

僕がこの映画を見ようと思ったのは女優の小松菜奈さんのファンで出演している事を知って見ようと思い、一人で映画館へ行きました。内容はあまり知らずに行ったので、楽しみにしていましたが、**R15** とだけあって、暴力的でドス黒い内容でした。今回1番衝撃だったのは、柳楽優弥の演技でした。彼の役はとても無口な **18** 歳で自分の欲望の為だけに動く男なのですが、勢いが演技以上のものを感じさせ、とてもかっこよかったです。菅田将暉の役はとても小心者で誰でも持った事がある虚栄心を見事に演技していた。彼自身の役者の幅が広がるのだと思った。肝心の小松菜奈さんですが、「渴き」という映画以降急激に凄みを増しているように思います。不思議なオーラをまといながらもしっかりと演技ができ、ファンでよかったです。何よりかわいいです。他の役者さんたちも必要不可欠でした。存在感があり、ここまで適役はいないと思えるぐらいぴったりでした。

少し難しく、何を伝えようとしているのかを考えても分からず、でもこの映画は世に発信して意味の作品だと感じた。

鑑賞レポート 32020

映画名「エイプリルフールズ」

評価 6 / 10

ストーリー

この映画は何人かの主人公がそれぞれ話をすすめていく映画です。まず一人目は新田あゆみという人です。新田あゆみは牧野亘という人との子供ができました。牧野亘は新田あゆみの前から姿を消して麗子という人とイタリアンレストランに行っていました。二人目は宇田川という男です。宇田川は女の子を誘拐していろいろなところへ連れ回します。三人目は野沢遥人という学生です。野沢はエイプリルフールに流れたデマの情報を信じて、自分は宇宙人だと思って、今までいじめられていたので、そのいじめていた人に復讐して好きな人に告白をして、学校の屋上に行って宇宙と交信します。四人目は櫻小路佑麻呂と櫻小路文子です。この二人は本当は本人ではないですが、エイプリルフールなので遊びで本人になりきります。

鑑賞レポート（ネタバレあり）

僕は映画を見ている時に思ったのが、この映画はそれぞれのストーリーが最後の方に一つになる映画なのですが、僕は 20 分くらいで一つになって、そのそれぞれが集まって何かをして、みんなで一つのことを成し遂げて終わりと思ったのですが、そのバラバラが最後まで一つにならなかったのが衝撃が走りました。でも学生の野沢は最後まで誰とも交わらなかったのが、なんで出てきたのかと思いました。でも本当の最後に嘘で書かれた宇宙船が来てその学生が連れ去られて映画が終わった時に、今まで面白かったけど、映画が終わってからは少しまんなくなっていました。あと松坂桃李さんが映画の中ではぜんぜん雰囲気違って、さすが役者だなと思いました。松坂桃李さんは今回悪者だったので、今まで善人役しか見ていなかったのが、こういう演技もできるんだなと思いました。

映画名「ビリギャル」

評価 10/10

ストーリー（ネタバレあり）

中学入試で、ここの学校に入ったら好きなように過ごせばいいという母の言葉通りに、中学、高校と過ごしたさやかちゃんは、高校2年生の夏に小4レベル、偏差値 30 の学力学年ビリのギャルに。その結果、エスカレータ式で大学まであがるのは厳しくなっていた。そこでさやかちゃんの母であるああちゃんは後に恩師となる坪田先生が勤める塾の広告をさやかちゃんに見せ、さやかちゃんは坪田先生の塾に通うことになった。しかし、入校テストで、さやかちゃんはお手上げ珍回答ばかり。そんなさやかちゃんに、坪田先生に向き合って勉強した。そして、様々な困難を乗り越えて、慶応義塾大学経済政策学部に現役合格した。

鑑賞レポート（ネタバレあり）

私がこの作品において、心に残っているのは母の愛情です。さやかちゃんが一念発起して、慶応を目指し始めた頃、弟の野球のことにつきっきりの父は「騙されている」「受かるわけないだろ」と言い、猛反対。それでも、さやかちゃんの母、ああちゃんは、さやかちゃんと坪田先生を信じてくれました。私が一番、ああちゃんからさやかちゃんへの信頼と愛情を感じられたのは、ああちゃんが学校に呼び出されたシーンです。学校の先生が、「ほとんどの授業で寝ているのだったら、学校に籍を置く必要はないんじゃないですか」と言ったら、ああちゃんは、どうか卒業だけはさせてくれるように頼み、その後に「あの子はいったいいつ寝ればいいんですか。学校しか寝る場所がないんです。」と言いました。私にはこの言葉が衝撃的でした。通常、親が言う言葉ではないと思ったからです。でも、ふつうではないああちゃんの発言は娘を思いやるあまりのものだと強く感じました。

もう一つ私が心打たれたシーンがあります。それは、模試の判定でEが続き、何のために勉強しているのかわからなくなり、逃げ出してしまったさやかちゃんが大雨の中びしょびしょになりながら、ああちゃんの職場に行ったシーンです。ああちゃんの胸の中で大泣きするさやかちゃんを見て、本当に辛いんだなと伝わりました。それと同時に、静かに受け入れるああちゃんの優しさを親子の愛が感じられて感動しました。

映画名「シビル・ウォー」

評価 10/10

ストーリー（ネタバレあり）

マーベルコミック原作「キャプテン・アメリカ」シリーズの第3作。

マーベルヒーローが集結した「アベンジャーズ エイジ・オブ・ウルトロン」後の問題となり、キャプテン・アメリカとアイアンマンという「アベンジャーズ」を代表する二人のヒーローの対立を描く。人類の平和を守るアベンジャーズは戦いは全世界へと広がるが、その人的・物的被害の大きさから、アベンジャーズは国際的な政府組織の管理下に置かれ、無許可での活動を禁じられる。一般市民を機器にさらしてしまったことへの自責の念から、アイアンマンはその指示に従うが、「自らの行動は自らの責任で持つべき」という持論のキャプテン・アメリカは反発。二人の意見はすれ違い、一触即発の緊張感が高まっていく。キャプテン・アメリカ、アイアンマンらおなじみのアベンジャーズの面々に、アントマンやスパイダーマン、ブラックパンサーと新たなヒーローも次々と参戦。

鑑賞レポート

今までのアベンジャーズの映画では、仲間が一致団結して、敵をたおして、戦っていたけど、今回のアベンジャーズの映画は、仲間が分裂し、仲間同士で戦うという話です。私はこの映画を見て、とても面白かったし、感動しました。

最初は仲間が分裂することなく、チーム一丸となってセカイを守っていました。しかし、世界は敵から守れている反面、街が崩壊してしまいます。これをきっかけに、政府がアベンジャーズを支配することになり、政府についていく人たちと、個人で世界を守る人たちとで別れてしまいます。これが分裂してしまう原因です。それで仲間同士が戦ってしまいます。

仲間同士で戦うので、相手がどういうふうに攻撃してくるのがわかるので、そこが私は面白かったです。あと、仲間が分裂してしまいましたが、最終的に、政府に支配されていた人たちは、個人で世界を守っている人たちのリーダー、キャプテン・アメリカのチームに加わり、チームが一丸となります。そのシーンが一番感動しました。

この映画は、ストーリーが難しいのですが、私はこの映画をおすすめします。